

平成 29 年の仕事始め式に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

明けましておめでとうございます。

皆さん方にはそれぞれに新春の幕開けを新たな決意をもってお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

また、辻 賢治議長並びに山内政夫副議長におかれましては、新年早々のお忙しい中にも拘わりませず本日の仕事始め式にご臨席いただき誠に有り難うございます。

どうか本年も引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。

さて昨年は、いろんな局面で「立ち止まって熟慮する」ことが大事であることを再認識させられた年でした。特に市民の安心安全な暮らしを確実なものにしていくには、念には念を入れてあらゆる想定を準備し整えていく態勢が重要であります。そうした意味において、ふるさと納税の寄附金を活用して昨年末に市内全ての消防団員に対し、救助用半長靴と耐切創用手袋を配布し、さらに消防自動車各車両に救命胴衣 5 着ずつを配置できたことは大変意義深いことだと、改めて寄附していただきました皆様に感謝申し上げる次第であります。

それから、昨年中に世界遺産登録を目指していた「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」についても「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」と名称を改め、来年 30 年度に仕切りなおしをいたしましたし、テレビ番組によって全国民が注目していた平戸観光交流センター「レストハウス」の改修事業についても議会からのご指導により、専門家や市民のお立場から幅広く意見を集約した検討委員会を立ち上げ熟慮して臨むこととなり新たなステージへの移行となります。結果的にこの二つの事業が平成 30 年度内の実現を目指すことになり、相乗効果を導き出す前提が整ったと考えられます。

ご承知のとおり、今年は何年です。十二支の「酉」という文字は、「果実が極限まで熟した状態」という意味があり、商売繁盛につながるとされています。

つまり来るべき平成 30 年に向けて、世界遺産登録もレストハウスも、そしてより重要な施策の一つである「平戸市総合計画」の策定についても、この一年、議論を

尽くし、内容を吟味し、極限まで熟した状態に実らせていくことが重要であります。

1月14日からは、首都圏のオシャレで人気スポットの渋谷区「恵比寿三越」において、単独自治体では初めてとなるアンテナショップ「平戸マルシェ」がオープンとなります。これにより我が国の最先端を行く大東京の一等地で平戸の魅力を粘り強く発信し続け、都民だけでなく全国各地から訪れていただく多くの人々の認知度や評価の高まりによって、「買ってみたい商品」から「行ってみたい地方」、そして「住んでみたいふるさと」へとステップアップし、産業振興や交流人口の増大へ向けて成長を成し遂げ、各類似自治体の先頭に立つことを目指します。

まさにこの一年、私たちが市民の皆様と取り組んでいる様々な事業が極限まで熟し、成果を収めることができるような充実した時になるよう頑張ってください。

十二支の酉の文字で連想されるのは「酉の市」というお祭りですが、そこではやはり商売繁盛を祈願して「熊手」が人気商品として販売されています。これは「運をかきこむ」「福をかきこむ」という縁起をかついでたくさんの商売人が購入しているようですが、まさに私たちもそうした言い伝えにあやかって、平戸市内の各地に埋もれている宝物を市民の皆様の英知と結束によってかき集め、それをまちづくりに反映し、魅力あふれる自立した持続可能なふるさと創生につないでいきましょう。第一期「平戸市総合計画」の仕上げの年として「H I T O響きあう宝島」の総決算と、次期計画に向けた準備、さらに進行中の「平戸市総合戦略」をより具体化・実践化していくことで、「ずっと住みたいまち」「生まれてよかった」「嫁いでよかった」と言われるようなふるさとを築いていきたいと思えます。

さて、今年の10月は新平戸市が合併して4度目の市長選挙と市議会議員選挙が予定されています。本市にとって、これも一つの大きな節目であり、これまでの評価やこれからの期待を込め、市民の総意に基づき、民主的な手続きによって代議制民主主義が確立されることとなります。選挙管理委員会のご指導のもと明るい正しい

選挙となりますよう、関係各位との連携をよろしく申し上げます。

結びになりますが、本年が平戸市民の皆様にとって、素晴らしい年になりますことと、併せて職員各位の更なるご奮闘を期待申し上げ、年頭のご挨拶といたします。  
終わります。